

**【事務事業調査】**

事務事業名	町体育協会補助		予算科目コード	会計-款-項-目-事業 001-10-05-01-002-01-01-0
担当部課	教育部 生涯学習課	担当 リーダー	社会教育担当 山野井 紀泰	事業の分類 既存事業

**■事務事業の概要**

	何をどのような方法で実施します(実施しました)か？	どのような成果が現れます(現れました)か？
計画	H22 事後評価 ◆高根沢町体育協会の円滑な運営のために、財政的な支援を行いました。	◆町民がいつでも、どこでも、気軽に運動に参加できる環境づくりにつながりました。 ◆体育協会に加盟している競技専門部が年間を通してスポーツ教室や、競技大会を開催することで、町民一人1スポーツの推進に大きく貢献し、運動習慣の定着につながりました。  ※高根沢町体育協会とは、高根沢町の生涯スポーツ推進の中心を担う団体です。
	H24 事前評価 ◆高根沢町体育協会の円滑な運営のために、財政的な支援を行います。	
実績		

**■活動指標**

指標	目標値	達成値	特記事項
専門部の数	18部		◆競技専門部 (陸上競技部、野球部、卓球部、バレーボール部、ソフトテニス部、バドミントン部、サッカー部、弓道部、剣道部、柔道部、スキー部、ソフトボール部、バスケットボール部、射撃部、空手道部、テニス部、ゲートボール部、グランドゴルフ部) 18部

**■事業費(計画)**

【単位:千円】

細節	金額	積算根拠
1 補助金	3,124	◆H23年度と同額要求。
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
	3,124	

**■事業費(実績)**

【単位:円】

細節	金額	特記事項
1		
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
	0	

**■事業経費**

		計画 【千円】	実績 【円】	特記事項
予算	当初予算額	3,124		
	補正予算額			
	流用額			
	予算現額			
決算	決算額			
財源	国庫支出金			
	県支出金			
	地方債			
	受益者負担金			
	その他の特定財源			
	計	0		
	差引(一般財源)	3,124		

■補助金等名:高根沢町体育協会補助

■補助事業者等:高根沢町体育協会 会長 鈴木 保夫

★自己評価基準

- (1)とてもよくあてはまる:5点
- (2)あてはまる:4点
- (3)どちらかというにあてはまる:3点
- (4)どちらかというにあてはまらない:1点
- (5)あてはまらない:0点

★総合評価基準

- (1)継続:総得点が35点以上
- (2)見直し:総得点が35点未満

補助金等交付基準		自己評価	評価に関するコメント	
1	公益性	■受益が不特定多数の町民に広く及ぶものであり、特定の個人や団体のみが利益を受ける事業でない。	4	高根沢町の競技スポーツの中核を担う団体として、塩谷地区スポーツ大会や県民スポーツ大会に町代表選手団を送り出しています。日頃から各種目のスポーツ教室を開催し、町内の子どもから大人まで、生涯スポーツの振興と選手・指導者の育成に努めています。また、町内で実施される各種大会等の運営に協力し、地域の活動に積極的に参加しています。
		■町全体に波及効果が期待できる。	4	
2	必要性	■地域経営計画に即し政策的に奨励する事業であり、町民のニーズに即している。	4	生涯スポーツの振興と町民のスポーツ実施率の向上を目指し、スポーツを通じて地域づくりに貢献しています。
		■社会動向を展望し、先見性・発展性がある。	4	
3	公平性	■民間、NPO、ボランティア等、既存団体等の活動を阻害しない。	4	各種スポーツ教室を開催し、住民の運動欲求を満たすことができるように、様々な方法で広報し、広く参加者を募っています。
		■町民のサービス受益機会が均等である。	4	
4	効果性	■事業効果が明確かつ具体的である。	4	人の育成や技術の向上、また、スポーツを実施することによる満足度など効果が明白でない部分も多いが、継続してスポーツ教室が開催されていることや、地区・県民スポーツ大会にほぼ全種目に参加できる選手を育成していることにより効果を認めることができます。
		■予算の見積が適正である。	3	
5	適格性	■実施体制が明確である。	4	本町の生涯スポーツを担う団体として組織化できており、目指す方向性も的確であり、県体育協会、日本体育協会の基盤となって活動しています。
		■自主・自立の傾向が明白で、将来計画がある。	3	
合計点数		38		
総合評価		継続		